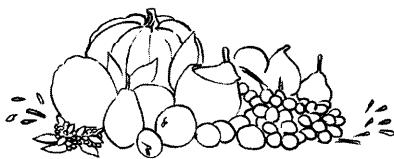


雪嶺集

〈宮坂静生 鑑〉

永遠

小林貴子



夏のれん月の満ち欠け刻々と
ふいに永遠に会ふそれが少年の夏
蛍の長い話を聞いてやり
若冲の色また色や唐辛子
羅や歩みは水尾を引く如く
蟬ほどに軽くあれかし我が骸
百合搖るる晚禱刻の輕井沢
避暑名残中村真一郎を読む
新涼の星にゐて星仰ぎをり
ハムを巻かれてゐるメロンは幸せか